

大阪が再び輝くために。

「大阪維新」

大阪から自治体経営を変える

大阪府総務部財政課長 菊地 健太郎

経歴

平成7年	4月	自治省採用 自治省行政局選挙部選挙課
平成7年	7月	大阪府財政課
平成9年	4月	消防庁防災課
平成10年	4月	総理府地方分権推進委員会事務局調査員
平成11年	4月	自治省税務局固定資産税課
平成13年	1月	総務省自治税務局固定資産税課係長
平成13年	4月	熊本県総務部私学文書課県政情報室長
平成14年	4月	同 環境生活部廃棄物対策課長
平成16年	4月	同 総務部財政課長
平成18年	4月	総務省消防庁総務課課長補佐
平成19年	4月	同 自治行政局地域振興課 過疎対策室課長補佐
平成21年	4月	現職

プロジェクト紹介 大阪府の自治体経営改革

大阪府では、「変革と挑戦」をキーワードとした自治体経営改革を進めています。「地域主権」時代のあるべき自治体の姿を、全国のトップランナーとして大阪府が体現していきたい。こうした橋下知事の政治理念を具体化することが、府政運営の重要なテーマとなっています。私自身は府の財政責任者として府財政を通して、自治体経営改革に携わっています。仕事をする上で心がけている点は次の二点です。

一 財政規律の堅持、行財政改革の徹底

景気低迷による税収減に伴い、厳しい財政運営が続いています。行財政改革は府政最重要の課題で、12月には新たな「改革プロジェクトチーム」も立ち上げました。徹底した改革を進めていきます。

二 事業予算の査定を通じた政策形成への寄与

歳出抑制を行いながらも、重要課題への重点的かつ戦略的な予算配分が必要です。査定を通じ、教育・医療福祉・土庫などのすべての政策に関わりをもつ立場にあり、施策の企画立案にも参画しています。府庁の事業に限らず、地方財政制度など国の政策にも十分な目配りが必要で、府庁内外との連絡調整に努めています。



大阪府庁本庁舎前にて



「大阪維新」ロゴマーク

■橋下知事の「大阪維新」

「大阪維新プログラム案」には、次のように宣言されています。

税金の使い方、予算編成や意思決定の仕組み、市町村や民間との関係、さらには府の役割そのものにまで立ち返り、これまでのやり方やシステムを抜本的に改革する、過去のしがらみや経過には一切とらわれない、大阪発の「自治体経営革命」を起こす、と。

地域主権が叫ばれる中、自治体には従来にも増して、自らを厳しく律し、限りある財源・人的資源を最大限生かすことが求められます。大阪の取り組みが、全国のリーディングケースとなることを目指しています。

■行政装置を動かす

橋下知事は、多様なチャネルから情報を吸収し、行動し、職員の建設的な提案にも耳を傾け、府民目線・府民感覚に徹して行政の現場に即した「なるほど」と思える改革案を提示します。

知事の示す大きな方向性を行政として現実のものとしていくには、一般会計予算規模3兆円、職員定数約9000人の巨大な行政組織を動かし、関係者と調整していく必要があり、その中で生じる様々な障壁を一つ一つクリアしながら改革を進めていくプロセスは非常にダイナミックです。

私は財政課長として財務・予算編成の側面から改革の一翼を担っています。財務面では、中期財政試算、予算査定過程の公開、新公会計システムの導入、府独自の財政指標を含めた指標による健全性確保など、大阪府独自のモデルの構築を進めています。予算編成の面では、財政再建を図りつつ、重要政策に戦略的に予算を配分する「選択と集中の徹底」を行っています。さらに所属長としては課員数十名の指揮官の役割を担っています。すべての局面において合理的に業務を進め最大の効果を得ることが求められ、プレッシャーは大きい反面、やりがいを感じています。

■地方で働くということ

総務省は地方赴任の機会が非常に多いです。私自身も大阪府、熊本県、そして2度目の大阪府と3度の地方赴任を経験しています。

総務省の地方経験は「国」と「地方」のスペシャリストとして非常に重要な経験です。多様な地方の現場で現場の人々が抱える課題を皮膚感覚でとらえ、地方行政の中でもまれることが、活きた政策を企画立案していく力となります。そして、「国」においてはその力をもとに総務省の政策にとどまらず、各省の政策を現場でより良くワークするように改革していくこと、「地方」においてはその力と露が関で培った国政の知識やネットワークをもとに、国地方全体の動きを見据えた上でその地域の政策を企画立案していくことが総務省職員には求められているのです。

■どのような就職をするか

収入や自由時間の多寡、セネラリストかスペシャリストか、東京で働くか国外・国内を問わず経験したいかなど就職に当たり皆さんが考慮する要素は様々でしょう。「こうなりたい」と思える人達がいる職場を探せ。私は、このように皆さんにアドバイスしたいと思います。私は総務省(旧自治省)でお会いする方々に惹かれ、入省することになりました。この方々が、なぜ魅力的なのか。10数年前のこの採用案内パンフレットに次のようなことを記しました。

①総合的な職務にあたり、②国・地方を経験し、③多くの人と触れ合う、④質量ともに圧倒的なチャンスに恵まれているからであると。採用16年目を迎えようとしている今、これに補足することはありません。自分もこうした先輩方に一歩でも二歩でも近づけるよう努力しています。

自分の全力を傾けなければならない仕事、全人格的に挑むべき仕事。楽ではありませんが、私はこういった仕事にやりがいを感じます。総務省では、皆さんにとって「やりがい」のある仕事と、様々な得がたい体験が待っています。

Schedule 1年のスケジュール



4月

辞令交付
二度目の大阪府赴任。
橋下知事から辞令を交付されて緊張。
懐かしい面々とも再会

5月・6月

補正予算編成
新型インフルエンザ、経済対策など補正予算を次々と編成する。時間的制約の中、即断即決

9月

9月議会
WTCビルへの庁舎移転関連の予算案・条例案の審議

10月

「府政運営基本方針2010」策定作業
「府政運営の基本方針」の策定作業に携わる

11月

予算編成作業始まる
平成22年度当初予算編成。
各部署からのヒアリング、査定

12月

改革PTの立ち上げ
新しい財政再建プログラム策定のため
プロジェクトチームを立ち上げ

2月・3月

議会審議
府議会での予算等審議。
議会各会派への説明、調整にあたる